

研究成果情報

令和元年度

西洋なし「ル レクチェ」の大苗を利用したジョイント栽培による早期多収技術

[要約] 不織布ポットで養成した大苗を、ほ場に定植後にジョイントし、花芽着生を促す枝管理を行うことで、定植から3年目で収穫を開始し、5年目で成園並み収量を得ることができる。

新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科

連絡先

TEL 0254-27-5555

FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

日本なしで普及が進んでいるジョイント栽培技術は西洋なし「ル レクチェ」においても有効な技術であるが、「ル レクチェ」は苗木の生育特性が日本なしと異なっていることや、若木で花芽が着生しにくいという特徴があることから、品種特性に応じた管理方法を必要とする。そこで、ジョイント栽培における「ル レクチェ」に適した苗木養成、植栽、側枝養成の方法を示す。

[内容]

1 苗木ほでの集中管理によるポット大苗の養成

優良系のマメナシ台木を用いた「ル レクチェ」苗を8号規格(直径 24cm、高さ 25cm)の不織布ポットに植え付け、1日2～3回、約2Lのかん水と4週間に1回の追肥(IB化成 15g/ポット)を施用し、長さ3m以上の大苗を育成する(図1)。

2 苗の定植とジョイント

大苗は春植えとし、樹間は1～2mで苗の長さに応じて隣接樹とジョイント可能な距離で植え付ける。4月中に主枝のジョイント(接ぎ木)を行う。その際に図1の苗から伸びた2本の枝のうち1本をジョイントし、予備的に残しておいた残りの1本はその後に切除する。

3 平棚の棚線を利用した側枝の養成方法

1年枝で落葉後の基部径が6.5mm以上、9mm未満の1年枝の先端を真上向きに誘引し、1年間伸長させて花芽着生を促す。2年目以降は側枝先端を斜立させながら列間が埋まるまで短果枝を維持しながら伸長させる(図2)。

4 着果管理

若木のうちは花芽が多く着生しても着果が不安定なので、側枝上は多くの花を開花させ、開花期間中に2～3回人工受粉を実施し、着果を確保する(データ略)。それにより植栽3年目から収穫を開始し、5年目には成園並みの収量を得ることができる(図3)。

[導入効果]

「ル レクチェ」の新規導入や規模拡大による経営安定、生産拡大

[導入対象]

少雪地域の新植意向のある農業者、改植意向のある西洋なし「ル レクチェ」生産者

[留意点]

- 1 優良台木「ル レクチェ」苗木は、利用予定の3年前までに全農にいがたに予約して確保する。
- 2 ジョイント栽培の樹形や技術の概要、その他の留意点については、平成30年度研究成果情報「早期収穫開始を可能にする『ル レクチェ』のジョイント栽培」を参照する。

[具体的データ]

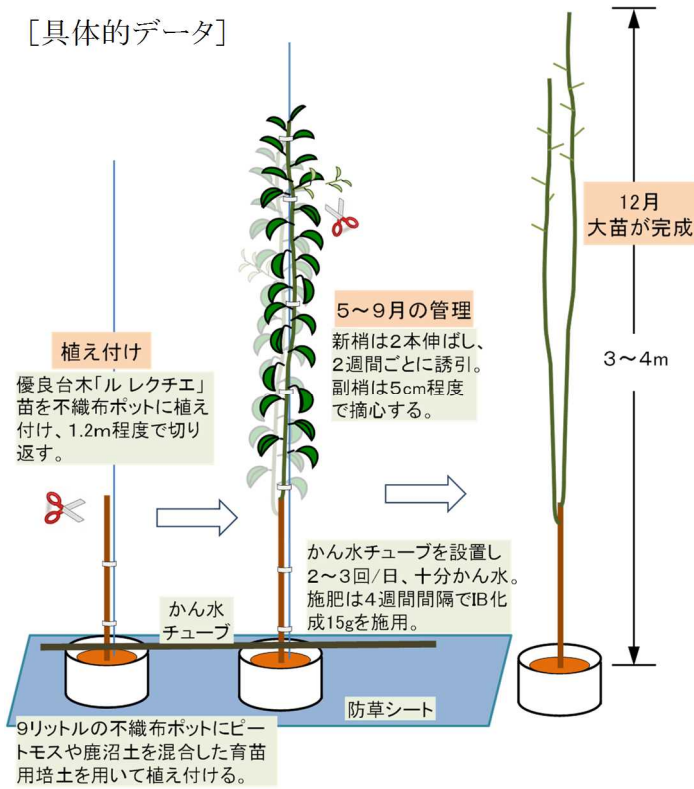


図1 不織布ポットを利用した大苗の養成方法

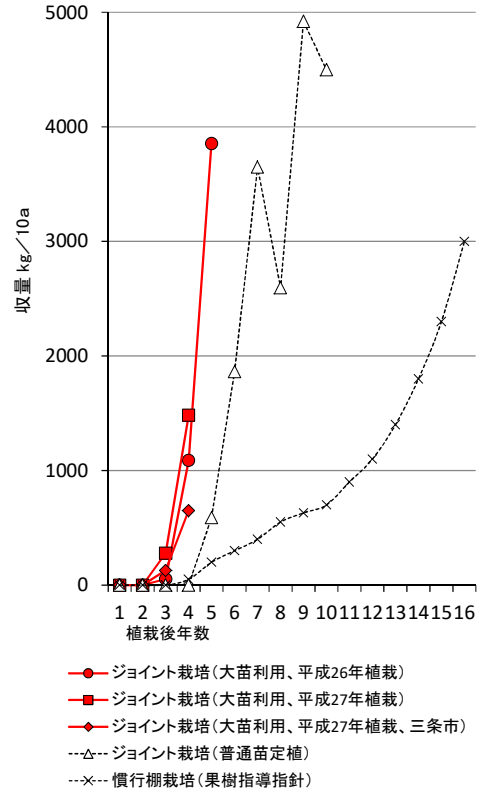


図3 ジョイント栽培樹の収量推移

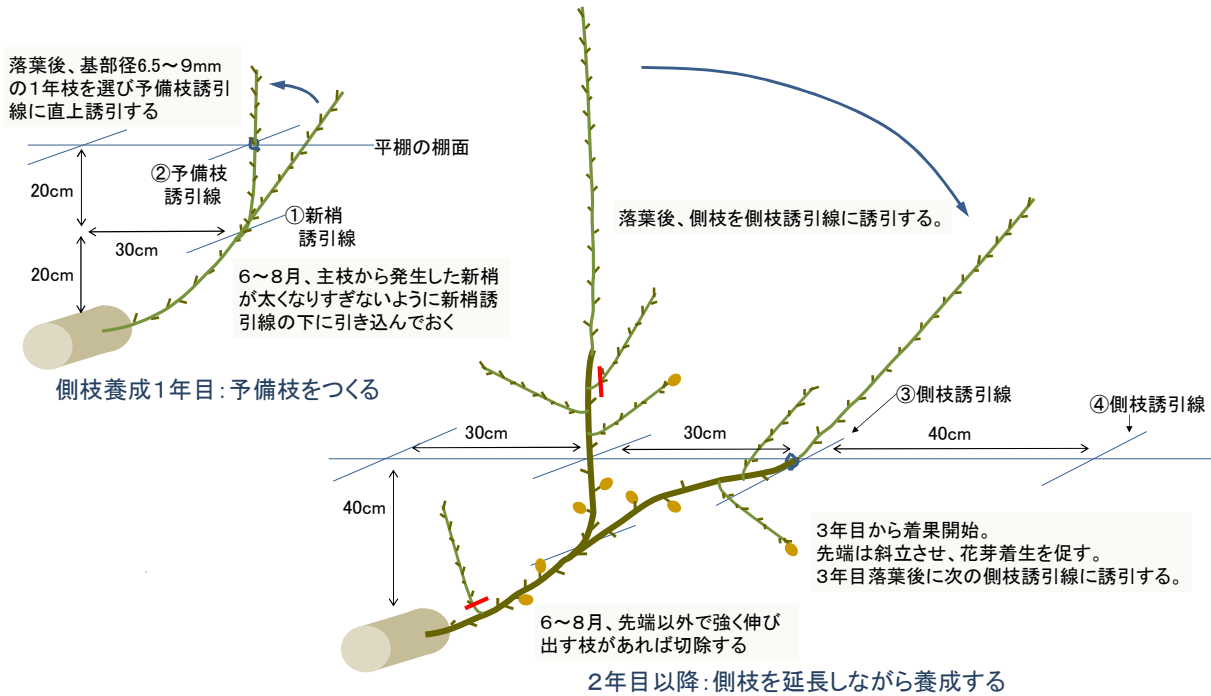


図2 棚線を利用した側枝養成の方法

[その他]

研究課題名:「ルレクチェ」ブランドの強化拡大に向けた安定生産技術の開発

予算区分: 県単政策(地域ニーズ)

研究期間: 平成27～29年度

発表論文等: 園芸学会平成31年度春季大会(平成31年3月)